別記様式第５（第３条関係）

教育・実技・実務等業績目録

氏　名　　　　　　　　　　　　（記名可）　　　　（西暦）　　年　　月　　日現在

別記様式第５（第３条関係）

**記　入　例**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【研究業績に重点を置いた評価】

教育・実技・実務等業績目録

氏　名　　　○　　○　　○　　○　　　　　　　　　　　20○○年○月○日現在

（実　　　績）　　　　　　　　　　　　　（期　間　等）

E1：著作（教科書・概説書・入門書等）

　筑波花子：章のタイトル.　講座用教材名（編者名），○○出版，○○～○○頁，2011年

E2：授業実績に関するもの

　　〔授業担当等〕

　　　○○大学○○学部○○学科（学群，学類）において

　　　　○○学概論　　　2単位　　　　　　　　　　　　　2008年　～　現在

　　〔委員会委員等〕

　　　○○大学学生担当教官室室員　　　　　　　　　　　　2010年　～　現在

　　〔その他〕

　　　○○大学○○学部非常勤講師（「英文学」1単位）　　 2013年　～　現在

E3：実務実績に関するもの

○○県教育委員会生涯教育専門委員会委員　　　　　　　 2009年　～　現在

「教育・実技・実務等業績目録」の記入要領

【研究業績に重点を置いた評価】

１　ワープロ等で作成すること（Ａ４判用紙を用いて、上下左右とも２cm程度の余白をとること。手書きの場合については、黒インク又は黒ボールペンを使用し、楷書体で記入すること）。

２　年号は西暦で記入すること。

３　「教育・実技・実務等業績目録」には，最近３年間の実績のうち主要なものを記載すること。

４　「実績」欄には，学術論文・著書以外の著作，教育実践，実技，実務，社会的業績等の項目を示し，その内容等を具体的に記載し，「期間等」欄には，実際に担当した期間，回数等を記載すること。

５　学術論文・著書以外の著作は，著者リスト，書名，発行所，頁，発表年の順に記載し，著者リストの本人の氏名に下線を施すこと。分担執筆の場合は，書名の前に分担した章名等を記入すること。

６　雑誌掲載の著作については，著者リスト，題名，雑誌名，巻，頁，発表年の順に記載し，本人の氏名に下線を施すこと。共著者が多数の場合は適宜省略し，何人の共著の何番目の著者か分かるようにすること。

７　「授業実績に関するもの」については，次のとおり記載すること。

　①　「授業担当等」には，在職大学名，学部・学科（学群・学類）・大学院及びその他（公開講座，教員研修）における一般教育及び専門教育の講義・演習・実習・セミナー等の担当のうちから，主要なものを選んでその担当単位数又は時間数を記載する。

　②　「委員会委員等」には，入試，カリキュラム，学生生活（厚生補導），就職等の委員会委員，学生担当，クラス担任及び課外活動の指導等の教育関係の実績を記載する。

　③　「その他」には，在職機関以外における教育関係の活動（非常勤講師等）を記載する。

８　「実務実績に関するもの」については，次のとおり記載すること。

①　「実技」，「実務」等については，教育業績に準じてその内容を具体的に記載する。

②　「社会的業績」については，委員会名等を在任期間の順に記載すること。

９　学生，教員，組織の長などによる授業評価を別添資料として付け加えてもよい。

10　学生指導実績等の記録，証拠等を別添資料として付け加えてもよい。

11　記入例（別紙のとおり）

　　業績の特定ができ，かつ，その量が明記できていれば，それぞれの組織や研究分野の様式に従って記載してよい。

別記様式第５（第３条関係）

|  |
| --- |
| **記入例**  【研究以外の業績に重点を置いた評価】 |

教育・実技・実務等業績目録

氏　名　　　○　　○　　○　　○　　　　　　　　　　　20○○年○月○日現在

（実　　　績）　　　　　　　　　　　　　（期　間　等）

E1：著作（教科書・概説書・入門書等）

　1)　筑波花子：章のタイトル.　講座用教材名（編者名），○○出版，○○～○○頁，2010年

　2)　筑波太郎，筑波次郎，筑波花子，（共著者名○人省略）：題名.　雑誌名，巻数，

　　　○○～○○頁（最初と最後の頁），2009年

E2：授業実績に関するもの

〔授業担当等〕

　1)　○○大学○○学部○○学科（学群，学類）において

　　　　共通科目外国語　　　3単位　　　　　　　　　　 2008年　～　現在

　　〔その他〕

　2)　○○大学○○学部非常勤講師（「英文学」1単位）　　 2010年　～　現在

E3：実務実績に関するもの

○○県教育委員会生涯教育専門委員会委員　　　　　　　 2009年　～　現在

その他　　E1：著作（教科書・概説書・入門書等）〇件

E2：授業実績に関するもの〇件

　　　　　E3：実務実績に関するもの〇件

「教育・実技・実務等業績目録」の記入要領

【研究以外の業績に重点を置いた評価】

１　署名を除いて、ワープロ等で作成すること（Ａ４判用紙を用いて、上下左右とも２cm程度の余白をとること。手書きの場合については、黒インク又は黒ボールペンを使用し、楷書体で記入すること）。

２　年号は西暦で記入すること。

３　「教育・実技・実務等業績目録」には、最近５年間の実績のうち主要なもの５件以内（本学教員の昇任人事の場合は，現職就任以降の業績を使用することが望ましい。）を、記載すること。

４　この「教育・実技・実務等業績目録」のほかに，「教育・実技・実務等業績」の全リスト（様式任意）を別途作成のうえ提出すること。

５　「実績」欄には，学術論文・著書以外の著作，教育実践，実技，実務，社会的業績等の項目を示し，その内容等を具体的に記載し，「期間等」欄には，実際に担当した期間，回数等を記載すること。

６　教科書，副読本，講座用教材，辞典，事典，実務関係書，実務関係報告書，総説，解説文等，学術論文・著書以外の著作については，主要なものを最近のものから順に記載すること。

７　学術論文・著書以外の著作は，著者リスト，書名，発行所，頁，発表年の順に記載し，著者リストの本人の氏名に下線を施すこと。分担執筆の場合は，書名の前に分担した章名等を記入すること。

８　雑誌掲載の著作については，著者リスト，題名，雑誌名，巻，頁，発表年の順に記載し，本人の氏名に下線を施すこと。共著者が多数の場合は適宜省略し，何人の共著の何番目の著者か分かるようにすること。

９　印刷中のものは「印刷中」と明記したうえで記載できる。この場合には、発行者の刊行(出版)証明書、又は査読等を経て正式に受理されたことが証明できる書類を添付すること。（記入例を参照）

10　「授業実績に関するもの」については，次のとおり記載すること。

　①　「授業担当等」には，在職大学名，学部・学科（学群・学類）・大学院及びその他（公開講座，教員研修）における一般教育及び専門教育の講義・演習・実習・セミナー等の担当のうちから，主要なものを選んでその担当単位数又は時間数を記載する。

　②　「委員会委員等」には，入試，カリキュラム，学生生活（厚生補導），就職等の委員会委員，学生担当，クラス担任及び課外活動の指導等の教育関係の実績を記載する。

　③　「その他」には，在職機関以外における教育関係の活動（非常勤講師等）を記載する。

11　「実務実績に関するもの」については，次のとおり記載すること。

　①　「実技」，「実務」等については，教育業績に準じてその内容を具体的に記載する。

　②　「社会的業績」については，委員会名等を在任期間の順に記載すること。

12　学生，教員，組織の長などによる授業評価を別添資料として付け加えてもよい。

13　学生指導実績等の記録，証拠等を別添資料として付け加えてもよい。

14　記入例（別紙のとおり）

　　業績の特定ができ，かつ，その量が明記できていれば，それぞれの組織や研究分野の様式に従って記載してよい。